

●指導のポイント

【研究の概要】

本校は、昨年度まで「見守り型支援」に基づいた、児童自らが学習を進める複式・少人数指導の研究を行い、研究主題を「自分の考えを持ち、進んで表現し深め合うことのできる児童の育成～複式・少人数学習のよさをいかした主体的な学びの展開～」として授業改善を進めてきた。そのため、自分の考えを進んで表現できる児童は増えた。しかし、互いに考えを深め合うことについてはまだ十分ではない。また、本校の児童は、明るく素直で、指示されたことには責任をもって取り組むことができるが、自分から進んで行動することができにくい。誰かを思いやる気持ちをもっているも、行動に移すことができていない児童もいる。

これらのことを踏まえ、今年度は、共感する力や思いやりの心、協力し合う態度を育て、集団や社会の一員としての自覚と責任を育みたいと考え、「特別の教科 道徳」の授業で、自分の生き方についての考えを深めさせることとした。合わせて、異学年交流活動等の機会を増やし、よりよい人間関係をつくる力を育むことを進めている。

【研究内容】

- ① 指導方法を工夫して、児童の心に響き心が動く「特別の教科 道徳」の授業を行う
○まず、指導者自身が道徳的価値・主題を捉える。そして、問題意識、切実感をもたせるために問題解決的な学習を中心にして進める。その際、児童が積極的に考えたり、自分事として考えたりすることのできる発問や補助発問をしながら、ねらいに迫る切り返しができるように意識している。また、「児童の発言が教材」という捉えで授業を組み立て、児童の発言を生かした構造的な板書の工夫をするとともに、学びを共有化させたり、自分自身と向き合うために書く場面を設定したりすることも重要であると考えている。
- ② カリキュラム・マネジメントにより道徳教育を充実させる
○人間としてのよりよい生き方が行為となるように、児童自らが判断できるようにするためには、自分事として捉えさせることが必要である。しかしそれは、道徳科の授業の時間だけでは難しいことである。そこで、日常の種蒔、つまりカリキュラム・マネジメントが必要になる。そこで、「特別の教科 道徳」の授業内容と各教科等の活動をつなぎ、繰り返して道徳的価値を深め、広げることを意識して研究を進めている。

